

別表 1

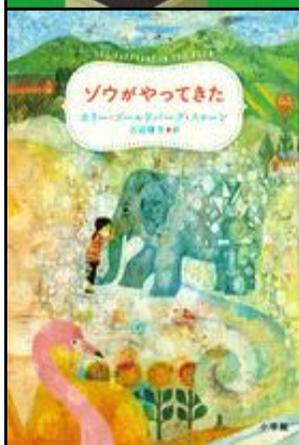
## 令和7年度 第4回 長野県青少年向け推薦図書一覧表 (2025-4回)

長野県社会福祉審議会 児童福祉専門分科会 図書審査部会

	書名	著者名	対象	本体価格(円)	発行所・発行年月日
1	おいしい おのまとぺ	作・絵 高原美和	年少～	1,200	PHP研究所 2025年9月
2	まるがかけたら	作・絵 武田美穂	年少～	1,600	理論社 2025年9月
3	かみなりせんによといなづませんによ	文 ハン・ガン 訳 さいとうまりこ 絵 チン・テラム	年中～	2,000	小峰書店 2025年9月
4	まよなかのかくれんぼ	作 ケイティーン・メイ・グリーン 訳 石津ちひろ	年中～	1,800	ほるぷ出版 2025年8月
5	バルレッタのふしぎな大おとこ	再話・絵 トミー・デ・パオラ 訳 福本友美子	年長～小学校低学年	1,600	光村教育図書 2025年9月
6	おいしいお米をつくりたい！ ゆうちゃん、小学生で農家に弟子入りしました	著者 谷本雄治	小学校中学年～	1,800	汐文社 2025年10月
7	レーナとヒキガエルの紳士	文 ミリアム・ダーマン&ニコラ・ディガール 訳 河野万里子 絵 ジュリア・サルダ	小学校中学年～	2,000	徳間書店 2025年5月
8	おれたちはギロンする	作者 安田夏菜 装画・挿絵 小鈴キリカ	小学校高学年～	1,400	静山社 2025年11月
9	合言葉はフリンドル！（新版）	著者 アンドリュウ・クレメンツ 訳者 田中奈津子	小学校高学年～	1,600	講談社 2025年11月
10	ぼくたちの歌	作 辻貴司 絵 みずす	小学校高学年～	1,500	佼成出版社 2025年5月
11	虫と仕事がしたい！	編著 丸山宗利、柳澤静磨	中学生～	1,540	河出書房新社 2025年10月
12	ヨコスカストーリー	著者 花形みつる	中学生～	1,500	理論社 2025年10月
13	ツバメの親子はどこにいる	作 樫崎茜	中学生～	1,500	くもん出版 2025年9月
14	チキン半々 大根多めで	著者 キム・ソヨン 訳者 下橋美和	中学生～	1,900	影書房 2025年9月
15	ゾウがやってきた	作 ホリー・ゴールドバーグ・スローン 訳 三辺律子	中学生～	1,700	小学館 2025年7月
16	そして少女は加速する	著者 宮田珠己	高校生～	1,800	幻冬舎 2025年9月
17	しっぽのカルテ	著者 村山由佳	高校生～	1,800	集英社 2025年11月
18	ペンギンにさよならをいう方法	著者 ヘイゼル・プライア 訳者 坏香織	高校生～	2,800	東京創元社 2025年9月
19	世界自炊紀行	著者 山口祐加	高校生～	2,500	晶文社 2025年8月
20	本が生まれるいちばん側で	著者 藤原印刷(藤原隆充/藤原章次) 聞き手・文 田中裕子	高校生～	2,300	ライツ社 2025年9月

	<p><b>1</b></p> <p>書名 おいしい おのまとぺ</p> <p>著者等 作・絵 高原美和</p> <p>出版社 PHP研究所</p> <p>定価 1,200</p> <p>対象 年少～</p> <p>発行 2025年9月</p>	<p>私達が食べ物を食べる時には、色々な音が聞こえます。皆さんは何かを食べる時の音で、好きな音はありますか。この本にはホットケーキ、オレンジゼリー、おもちなど身近にある食べ物が次々と登場します。どんな音が聞こえるかな？と想像しながらページをめくると、ホットケーキにバターをのせたり、ゼリーをスプーンですくったり、おもちがのびたりしている絵に合わせて「ほかほか じゅわっ」とか「ぷる ぷるん」とか「ビョヨン」などの「おいしそうな音」が聞こえてきます。親子で一緒においしい音を想像しながら読んだり声に出してまねをしながら楽しんだりすることができるオノマトペ絵本。</p> <p>(分類番号 913)</p>
	<p><b>2</b></p> <p>書名 まるがかいたら</p> <p>著者等 作・絵 武田美穂</p> <p>出版社 理論社</p> <p>定価 1,600</p> <p>対象 年少～</p> <p>発行 2025年9月</p>	<p>まるをかくのは、難しいです。でこぼこになったり、キュウリやナスみたいになったりします。でも、毎日まるをかいていると、だんだんうまくなってきて、うれしくて棒をつけたら、風船、お花、さくらんぼ、みかんになって、更に手と足をつけたら、人間になりました。よっちゃんです！続けていると、できなかったこともできるようになります。一つのまるから、さんかく、しかくをかくことができるようになり、楽しい世界がどんどんと広がっていきます。絵をかくのが苦手だと思っている子ども達が自分もかいてみたい！と思って楽しむことができるお絵かき絵本。</p> <p>(分類番号 913)</p>
	<p><b>3</b></p> <p>書名 かみなりせんによいなづませんによ</p> <p>著者等 文 ハン・ガン 訳 さいとうまりこ 絵 チン・テラム</p> <p>出版社 小峰書店</p> <p>定価 2,000</p> <p>対象 年中～</p> <p>発行 2025年9月</p>	<p>私達の目には見えない高い所にはお空の国があり、きれいな羽衣を着た仙女たちが雲をつくっています。二人のちびっこ仙女は雲をつくることにあきてしまい、羽衣を脱いで雲の上から緑の世界を見ていました。羽衣を脱ぐと空を飛ぶこともできないので、緑の世界に落ちそうになってしまいました。お空の国のでっぺんにいる仙女のおばあさんは、広い世の中を見にいきたいと願う二人に夕やけ色の箱を二つ取り出して渡しました。その箱の中に入っていたのは・・・夕やけ色の箱をもって二人の仙女が世の中に出ていきます。さあ、どんな世界を見てくるのでしょうか。韓国初のノーベル文学賞受賞のハン・ガンが、子ども向けに書いた唯一の絵本。</p> <p>(分類番号 929)</p>
	<p><b>4</b></p> <p>書名 まよなかのかくれんぼ</p> <p>著者等 作 ケイティー・メイ・グリーン 訳 石津ちひろ</p> <p>出版社 ほるぶ出版</p> <p>定価 1,800</p> <p>対象 年中～</p> <p>発行 2025年8月</p>	<p>あるお屋敷の一番上に子ども部屋がありました。その部屋には、たくさん絵が飾られていました。月の光がとても綺麗な晩のこと、絵の中に住む子ども達は、月の光に起こされて絵から抜け出しました。真っ先に飛び出して姿を消してしまったのが、長い髪の毛に白いリボンをしている双子の女の子です。いったいどこにいったのでしょうか？みんなで探しに行くことにしました。ページをめくると、女の子を必死に探す子ども達と見つからないように声をひそめて隠れている双子の女の子が描かれています。探す人と隠れている人のそれぞれの気持ちに寄り添いながらページをめくっていくのが楽しいです。自分も一緒にかくれんぼをしているように、楽しみながら先へと読み進めていくことができるかくれんぼ絵本。</p> <p>(分類番号 933)</p>
	<p><b>5</b></p> <p>書名 パルレッタのふしぎな大おとこ</p> <p>著者等 再話・絵 トミー・デ・パオラ 訳 福本友美子</p> <p>出版社 光村教育図書</p> <p>定価 1,600</p> <p>対象 年長～小学校低学年</p> <p>発行 2025年9月</p>	<p>イタリアのパルレッタという町にあるサン・セポルクロ教会の前に、とてつもなく大きな若者の像が立っています。この像がいつ、どこから来たのか誰も知りません。「ふしぎな大男」と呼ばれるこの像は、誰も思い出せないくらい昔からずっと、そこに立っているのです。今から千年も前のこと、この大男の像がパルレッタの町を救ったという不思議なお話が語り継がれています。ある時、海の向こうから千人の軍隊がパルレッタを攻めてきました。町一番のお年寄りのコンチェッタおばあさんから知恵を授けられたこの大男の像は、どうやって町の平和を守ったのでしょうか。地元の方が大切に語り継いできた昔話が絵本になりました。</p> <p>(分類番号 933)</p>

	6		<p>「ゆうちゃん」こと新宅佑輔さんは、農家の中井さんが作るお米が格別おいしいことに気づき、「田んぼで米作りがしたい！」と中井さんに弟子入りをする。田んぼを一枚借りて、完全無農薬・天日干しにこだわりながら、自分で米作りを進めていく。台風や害虫の被害、雑草との戦い、などたくさんの課題と向き合うことになるが、多くの人々の助けも借りながら、なんとか収穫までたどり着く。しかし、小学3年生のときの収穫量は目標には届かなかった。ゆうちゃんはリベンジをちかい、翌年も米作りに挑む。地域の人々に見守られながら小学生が米作りに挑戦するノンフィクション。</p>
	書名	おいしいお米をつくりたい！ゆうちゃん、小学生で農家に弟子入りしました	
	著者等	著者 谷本雄治	
	出版社	汐文社	
	定価	1,800	
	対象	小学校中学年～	
	発行	2025年10月	
(分類番号 616)			
	7		<p>西のはての小さな町のそのまたむこうには奇妙な森が広がっていた。町の人々は「あそこには、なにかおそろしいものがあるんだ」「森から二度と帰ってこない人たちもいる」とおそれながらも、川をわたり、森へ行って木を切っていた。そんな町の人たちを船で運んでいるのがレーナだ。物静かなレーナは嵐の夜に森で巨大なヒキガエルと出会う。森の主だと名乗るヒキガエルのクアクア卿の家へ招待されたレーナは、そこで動物に姿を変えられ鎖につながれた町の人々を見つける。世界で注目されるイラストレーターの美しい絵で紡がれる、少し怖い昔話風の物語絵本。</p>
	書名	レーナとヒキガエルの紳士	
	著者等	文 ミリアム・ダーマン&ニコラ・ディガール 訳 河野万里子 絵 ジュリア・サルダ	
	出版社	徳間書店	
	定価	2,000	
	対象	小学校中学年～	
	発行	2025年5月	
(分類番号 933)			
	8		<p>兄と比べて何のとりえもない小学6年生の陽太は「通行人C」キャラを自称している。ある日、父親をまたいで怒られ、イライラしながらたどり着いたフリマで「なついていない地域ネコみたいな目」をした芽衣と出会う。ひよんなことから議論好きな芽衣と「寝ころんでいる親をまたぐのは、是か非か」を議論することに。始めは論破されたことがくやしくて論破しかえしたかった陽太だが、芽衣と議論を重ねていく中で、自分の考えを見直したり、自分自身の良さや願いを見つめ直したりしながら議論の本質に気づいていく。「ギロン」を通して自分を見つめ直していく物語。</p>
	書名	おれたちはギロンする	
	著者等	作者 安田夏菜 装画・挿絵 小鈴キリカ	
	出版社	静山社	
	定価	1,400	
	対象	小学校高学年～	
	発行	2025年11月	
(分類番号 913)			
	9		<p>5年生になったニックの国語の先生は、きびしいと有名なグレンジャー先生だった。ニックは授業を妨害しようとして辞書が大好きな先生に辞書についての質問をするが、目論見がばれて失敗に終わる。しかし、そこで「辞書にどんな言葉がのるか、わたしたちが決定する」と教えてもらったことをきっかけに、とびきり楽しいことを思いつく。辞書にのっていない新しい言葉をつくるのだ。ニックがつくった「フリンドル」という言葉は学校中で流行し、やがて全米に広がっていき、大さわぎになる。思いがけない展開が最後まで続くアメリカの児童文学。</p>
	書名	合言葉はフリンドル！(新版)	
	著者等	著者 アンドリュー・クレメンツ 訳者 田中奈津子	
	出版社	講談社	
	定価	1,600	
	対象	小学校高学年～	
	発行	2025年11月	
(分類番号 933)			
	10		<p>6年生の一翔は応援しているバンドのメジャーデビューCDを買いに行った帰りに、公園でドラムを鳴らしている同い年の岳と出会う。ライブハウスを経営するおじさんの影響で音楽に詳しい岳のアドバイスで、一翔はベースを弾き始める。岳の親友で音楽仲間の明日音も加わり、3人はバンドを結成する。そんな中、一翔は父さんから、自治会の七夕祭りのステージで演奏しないか、と誘いをうける。結成したての3人のバンド「びいす」は、初めてのステージでオリジナル曲を披露することを目指す。まっすぐな小学生の青春バンド小説。</p>
	書名	ぼくたちの歌	
	著者等	作 辻貴司 絵 みずす	
	出版社	佼成出版社	
	定価	1,500	
	対象	小学校高学年～	
	発行	2025年5月	
(分類番号 913)			

	<p><b>11</b></p> <p>書名 虫と仕事がしたい！</p> <p>著者等 編著 丸山宗利、柳澤静磨</p> <p>出版社 河出書房新社</p> <p>定価 1,540</p> <p>対象 中学生～</p> <p>発行 2025年10月</p>	<p>世界には120万種もの昆虫がいるという。これは全生物の半分以上を占めると考えられるそうだ。そんな昆虫たちに魅せられ、追いかけて続けた結果、生活の糧にすることができた15人の著者による15通りの生き方と仕事が紹介されている。好きなことで生きていくとはどういうことか。人と違っていても、自分の「好き」をあきらめずにやり続けて得た仕事にたどりつくまでの道のり、困難や失敗を乗り越え、なお自分を信じて歩み続ける様子が率直に語られ、それぞれの一日のスケジュールからは生活の様子がリアルに想像できる。研究者や博物館員だけでなく、農薬や殺虫剤を作る会社員、昆虫採集家、イラストレーター、写真家、料理人など「虫との仕事」の多様さに驚く一冊。</p> <p>(分類番号 366)</p>
	<p><b>12</b></p> <p>書名 ヨコスカストーリー</p> <p>著者等 著者 花形みつる</p> <p>出版社 理論社</p> <p>定価 1,500</p> <p>対象 中学生～</p> <p>発行 2025年10月</p>	<p>戦後、アメリカ兵の歓楽街として栄えた横須賀。この町の光と影の中で育ったよし子と光毅の姉弟。第一章は姉よし子の物語。小学生のよし子は、ある日同級生の哲朗にパンを届けに行く。日本を去ったアメリカ兵の父親への複雑な心情を語る哲朗と、一見恵まれた家庭で育ちながらも孤独の中にあるよし子は、お互いが抱える痛みで共鳴する。第二章は弟光毅の物語。母の愛情を一身に受けて成長し、中学生になった光毅は、あることがきっかけで喧嘩が強いケイティとの友情を深めていく。アメリカンポップスという趣味を通して交友関係も広がっていくが……。家庭や社会の中での理不尽さや残酷さを知り、当時の横須賀で出自や肌の色による差別にさらされる友人の姿を通して、自分とも向き合い成長していく物語。</p> <p>(分類番号 913)</p>
	<p><b>13</b></p> <p>書名 ツバメの親子はどこにいる</p> <p>著者等 作 榎崎茜</p> <p>出版社 くもん出版</p> <p>定価 1,500</p> <p>対象 中学生～</p> <p>発行 2025年9月</p>	<p>昭和から平成、令和へと50年にわたる長い年月を背景に描かれた、ある家族の物語。昭和の時代、弱視の康夫は時には家族や親戚からの差別を受けながらも懸命な努力で国立大工学部を卒業し、エンジニアとなる。やがて全盲のゆかりと出会い、家庭を持った。二人の間に生まれた明照と音晴の兄弟は成長するにつれ、幼い頃には気づかなかった両親の障害を周囲によって意識させられるようになる。「親が障害者である」という理由で周囲から向けられる目が気になり、誰にも言えない葛藤を抱えていく。だが実は理解者である周囲の人々たちとのつながりや、厳しい祖母の言葉の中にある深い愛情への気づきに背中を押され、自分自身の人生へと歩き出す。せつなさや温かさ、優しさや力強さに満ちた物語。</p> <p>(分類番号 913)</p>
	<p><b>14</b></p> <p>書名 チキン半々 大根多めで</p> <p>著者等 著者 キム・ソヨン 訳者 下橋美和</p> <p>出版社 影書房</p> <p>定価 1,900</p> <p>対象 中学生～</p> <p>発行 2025年9月</p>	<p>本書の5つの物語は、韓国の現代史と各時代を象徴する「食べ物」をテーマに、それぞれの時代を懸命に生きる10代の少年少女を主人公に描かれている。朝鮮戦争からの避難生活でのサツマイモ、戦後の混乱期、米軍基地近くでつくられたプデチゲの原型となるスープ、独裁政権と急速な都市開発に翻弄される人々とインスタントラーメン、ソウル五輪開催直前の学生運動とトッポッキ、経済危機で会社倒産が相次ぐ中でのチキン。それぞれの時代を生き延び、戦い、再起をはかろうとする人々の暮らしと食べ物を、韓国が歩んできた歴史を背景に生き生きと描く。今や日本の私たちにも馴染みのある食べ物を通して、隣国の歴史を身近に感じながら興味深く読むことができる連作物語。</p> <p>(分類番号 929)</p>
	<p><b>15</b></p> <p>書名 ゾウがやってきた</p> <p>著者等 作 ホリー・ゴールドバーグ・スローン 訳 三辺律子</p> <p>出版社 小学館</p> <p>定価 1,700</p> <p>対象 中学生～</p> <p>発行 2025年7月</p>	<p>クルド人の父親とトルコ人の母を持つシラは、12歳のアメリカ人だ。大好きな母親が入国管理上のトラブルからトルコに一時帰国したまま再入国できない状況が続き、心を閉ざしがちになっている。自動車整備士の父親と寂しい生活を送る中、郊外の大きな農場から車の修理の依頼が来た。同行したシラは、依頼主の老人ジオと会話するうちに友達になる。そんなある日、ジオと父娘が訪れたドーナツ屋の駐車場に元サーカスの一団がやってくる。そこにはシラが一番好きな動物、ゾウのヴェーダがいた。そしてジオはある計画を思いつく。ジオは宝くじの高額当選者で、広大な敷地を持つ農場を購入したばかりだったのだ。ヴェーダの世話をするシラと友達のマテオ、見守る大人たちに訪れる結末が楽しみな物語。</p> <p>(分類番号 933)</p>

